

バイク用バッテリー専用充電器【制御弁式(シールタイプ)／開放型鉛バッテリー兼用】

BC-12-T 取扱説明書

このたびは、バイク用バッテリー専用充電器「BC-12-T」をお買上げいただき誠にありがとうございます。
「BC-12-T」はバイク用12V鉛バッテリー専用の充電器です。充電を開始すると充電完了まで自動充電を行います。※1
また、過放電バッテリーの回復を促進する「回復充電機能」を装備しています。
ご使用になる前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、安全に正しくご使用ください。
お読みになった後もお手元に置きご活用ください。
※1 バッテリーに亀裂、変形、膨れ、液漏れ等の異常がある場合は、正常に自動停止しない場合があります。

■ ご使用上の注意（ご使用にあたり必ずお読みください。）
この取扱説明書および本体への表示では、製品を安全にご使用いただき、使用者や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために色々な絵表示をしています。
ご使用にあたり必ずお読みいただき、記載事項をお守りください。

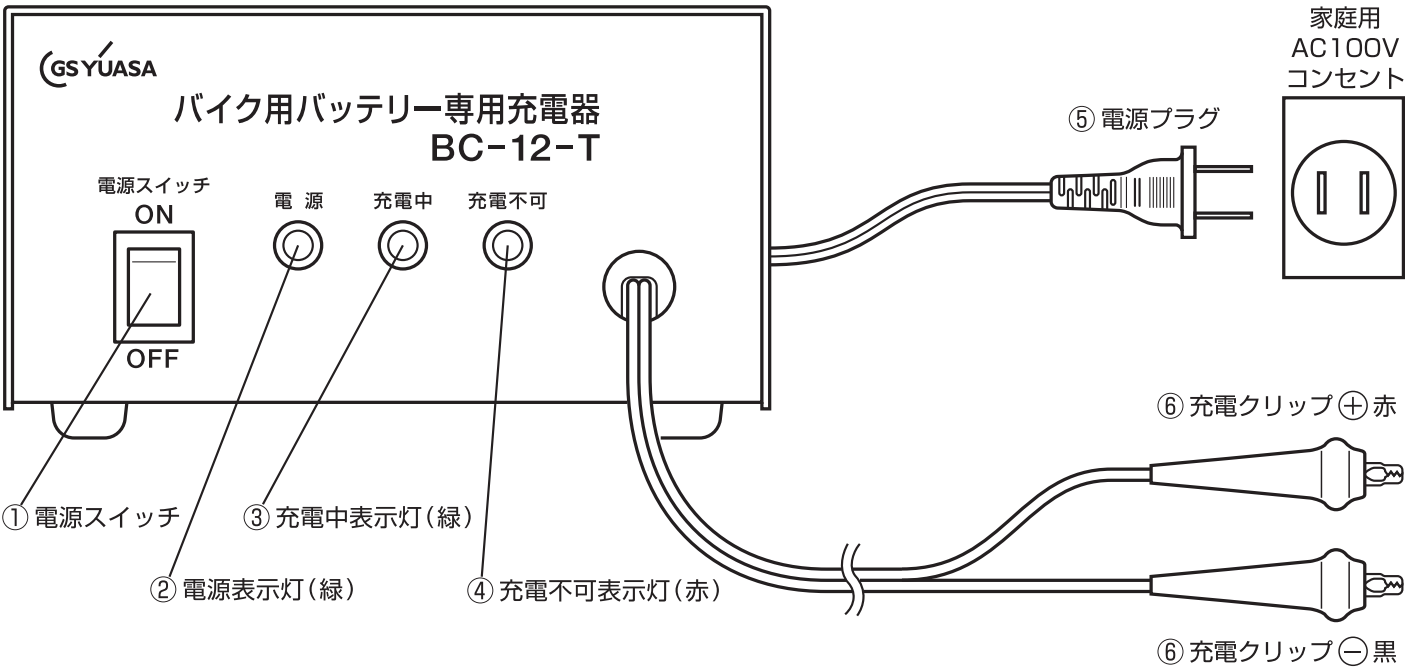
⚠ 危険 この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が切迫して想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が重傷を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

使用環境／使用条件	⚠ 危険	 ■ タバコなどの火の気のない場所、風通しのよい場所でご使用ください。 また、使用中はカーテンなどで充電器の通風孔をふさがないでください。 バッテリーが発火、爆発したり、充電器が過熱、発煙する原因となります。
		 ■ ガソリン、オイルなど可燃物の周辺や法令で第一種・第二種危険場所に指定されている場所では使用しないでください。 火災や引火爆発の原因となる恐れがあります。
		 ■ 本器の交流入力電圧はAC100Vです。指定以外の電源電圧およびコンセントでは使用しないでください。 万一使用されますと、充電器の発熱、発火、または感電、けがの原因となる恐れがあります。
	⚠ 注意	 ■ 本器は、バイク用制御弁式（シールタイプ）鉛バッテリーおよび開放型鉛バッテリー専用の充電器です。 （制御弁式（シールタイプ）：12V／2.3～18Ah（10時間率）、開放型：12V／2～20Ah（10時間率）） これ以外のバッテリーを充電したり、充電以外の用途（直流電源など）に使用しないでください。 充電器が発煙、発火したり、バッテリーの液漏れ、発熱、爆発の原因となります。
		 ■ 周囲温度0℃～40℃の範囲でご使用ください。特に直射日光下や発熱体の近くなど高温の場所では使用および保管しないでください。 充電器の過熱、焼損、バッテリーの液漏れ、発熱、変形の原因となる恐れがあります。
		 ■ 湿度の極端に高い場所、雨、雪などの水分のかかる場所で使用および保管をしないでください。 漏電、感電、充電器故障の原因となります。
		 ■ 振動、ほこり、塩害、化学性ガス害の受けやすい場所で使用および保管しないでください。 漏電、感電、充電器故障の原因となります。
		 ■ やむを得ずバッテリーを車両に搭載したままで充電を行う場合には必ず車両側バッテリー⊖（マイナス）端子のケーブルをはずしてください。 充電器が過熱、発熱、発火したり、バッテリーの引火爆発および車両搭載機器損傷の原因となる恐れがあります。
		 ■ 電源コード、充電コードを無理に曲げたり、コードの上に物を載せたりしないでください。 また、コードにひび割れ、芯線の切れかけがないか確認してください。 そのまま使用すると、感電、発熱、発火の原因となる恐れがあります。
使用前の注意	⚠ 危険	 ■ バッテリーを取り扱う時は、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。 バッテリーに入っている希硫酸により失明や火傷の原因となります。 バッテリーの電解液が目に入った場合は、直ちに多量の清水で洗浄した後、速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。
		 ■ バッテリーの液口栓を取り外す時は、特に周囲に火気がないことを確認してください。 バッテリー蓋の上が電解液で濡れた場合は乾いた雑巾ではなく、濡れた雑巾で拭き取ってください。 乾いた雑巾で拭き取ると摩擦で生じた静電気により爆発の恐れがあります。
	⚠ 注意	 ■ 充電する前に充電するバッテリーの電解液量を点検し、液面線間の中間以下に低下している場合は最高液面線（UPPER LEVEL）まで精製水を補充してください。（液口栓が取り外せないバッテリーは除く） 液量不足の場合、バッテリーの発熱、爆発の原因となる恐れがあります。 また、入れ過ぎると液漏れ、漏電、感電、火災の原因となります。
使用の注意方法	⚠ 危険	 ■ 子供、乳幼児には手を触れさせないように注意してください。 誤ってけがや感電したり、充電器が過熱、発煙したり、バッテリーが爆発する原因となります。
		 ■ 充電中に充電クリップの取り外し、取り付けは絶対にしないでください。 スパークによるバッテリー爆発の原因となります。

使用 方法 の 注 意	⚠ 危 険	■ 充電クリップをバッテリーに接続する時は、必ず電源を切ってください。また、充電を停止する時は、電源を切ってから充電クリップを取り外してください。 充電を開始する時の手順：電源OFF確認 → 充電クリップ接続 → 電源コンセント接続 → 電源スイッチON 充電を停止する時の手順：電源スイッチOFF → 電源コンセント抜く → 充電クリップ外す 操作手順を間違えるとバッテリー爆発の原因となります。
	⚠ 注 意	■ 充電クリップの接続は必ず取扱説明書の記載手順に従って極性に注意して行ってください。 また、容易に外れないよう確実に接続してください。 確実に接続していなかったり、極性を間違えて接続した場合には充電器が過熱、発煙、発火したり、バッテリーの過熱、爆発の原因となります。
	⚠ 注 意	■ 配線器具や延長コードを使用する場合は十分な電気容量を持ったものを使用してください。 配線器具やコードが発煙、発火する原因となる恐れがあります。
	⚠ 注 意	■ 充電器の通風孔や出力端子にドライバーなどの工具を差し込んだり、金属物を入れたりしないでください。 感電、発煙、発火の原因となる恐れがあります。
	⚠ 注 意	■ 電源コードはコードを引っ張らず必ずプラグ部分を持って抜き差ししてください。また、使用しない時は電源プラグをコンセントから抜いて保管してください。 電源コードが破損し、感電、発煙、発火、火災やけがの原因となる恐れがあります。
	⚠ 注 意	■ 充電器を分解したり、改造したりしないでください。 発煙、発火、火災や感電の原因となる恐れがあります。
異 常 時 の 処 置	⚠ 注 意	■ 使用中に次のような異常を感じた時は直ちに使用を止めて、電源プラグをコンセントから抜いてください。 ○ 所定の時間が経過しても充電が終了しない時 ○ 充電器やバッテリーに異常発熱などを感じた時 発熱して火災を起こす恐れがあります。
	⚠ 注 意	■ 異常や不具合が生じた場合の点検、調整、修理は指定のサービスセンターかご購入店にご相談ください。 そのまま使用したり、お客様による調整、修理を行うと発煙、発火やバッテリー爆発の原因となる恐れがあります。

■ 各部の名称とはたらき



名 称	はたらき
① 電源スイッチ	電源のON／OFF操作をします。電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み、電源スイッチをONにすると充電器が通電状態になります。
② 電源表示灯(緑)	充電器が通電中であることを知らせます。充電完了時は電源表示灯のみが点灯しています。
③ 充電中表示灯(緑)	充電器が充電中であることを知らせます。充電が完了すると消灯します。 充電終期タイマー動作中は、点滅状態になります。
④ 充電不可表示灯(赤)	この表示灯が点灯した場合は、次の症状を知らせます。(モードⅠのみ) (1) バッテリーに充電クリップを接続せずに充電したり、充電中に充電クリップが外れた場合。 (2) バッテリーの放電程度が強く、容量回復が困難なバッテリーの場合。 新品電池への交換をおすすめします。
⑤ 電源プラグ	家庭用AC100Vコンセントに接続します。
⑥ 充電クリップ	バッテリーの端子に接続します。

■ 定格と仕様

型 式	BC-12-T
交 流 入 力	AC 100V ± 10% 50／60Hz 35VA
直 流 出 力	モードⅠ：DC 20V 0.3A（充電開始から2時間限定のモード） モードⅡ：DC 14.4V 1.2A
適合バッテリー	DC12Vバイク用制御弁式（シールタイプ）／開放型バッテリー
適合バッテリー容量(10時間率)	制御弁式（シールタイプ）：2.3～18Ah／開放型：2～20Ah
使 用 環 境	温度：0～40℃ 湿度：30～85％（結露なきこと）
コ ー ド	入力側：1.5m 出力側：0.9m
外 形 寸 法	高さ75×幅145×奥行158（mm）（ただし、突起物を除く）
質 量	約 1.5kg

■ 充電過程と表示灯の動き

【 充電過程 】

充電開始 ⇒ （ 1. 充電初期 ）モードⅠ 開始⇒ （ 2. 充電中期 ）2時間後、モードⅡへ移行し充電継続
⇒ （ 3. 充電終期 ）タイマー動作 ⇒ （ 4. 充電完了 ）2時間後、充電停止

【 表示灯の動き 】 ○：点 灯 ☆：点 滅 ●：消 灯

	電 源	充 電 中	充 電 不 可	注 記
1. 充電初期	○	○	●	
	○	○	○	容量回復が期待できません。バッテリー交換をおすすめします。
2. 充電中期	○	○	●	
3. 充電終期	○	☆	●	
4. 充電完了	○	●	●	

■ 充電手順

① バッテリーの準備

1. バッテリーを車体から取り外してください。

⚠ 注 意 やむを得ず車載状態で充電をする場合は、必ず車両側バッテリーの ⊖（マイナス）端子ケーブルを外してください。
バッテリーに亀裂、変形、膨れ、液漏れ等の異常がないことを必ず確かめてください。

⚠ 危 険 異常がある場合は充電しないでください。バッテリーが異常発熱したり、液漏れ、破裂、爆発の原因となります。

2. バッテリーの液口栓は必ず全部（6個とも）取り外してください。
ただし、液栓が取り外せないものを除きます。制御弁式（シールタイプ）バッテリーの密封栓は絶対に取り外さないでください。
電解液が液面線間の中間以下に低下している場合は、最高液面線（UPPER LEVEL）まで精製水を補充してください。

② 充電クリップの接続

1. 充電器の電源スイッチがOFFになっていることを確認します。
2. 充電クリップの極性に注意して次の順序でバッテリーに確実に接続してください。
 - 1) 赤色クリップ ⊕（プラス）⇒ バッテリー ⊕（プラス）端子へ
 - 2) 黒色クリップ ⊖（マイナス）⇒ バッテリー ⊖（マイナス）端子へ

③ 充電開始～充電完了確認

1. 電源スイッチがOFFになっていることを確認します。
2. 電源プラグをコンセント（AC100V）にしっかり差し込みます。
3. 電源スイッチをONにします。

電源表示灯（緑）および充電中表示灯（緑）が点灯して、充電を開始します。

※ 充電不可表示灯（赤）が点灯した場合

充電クリップがバッテリー端子から外れていないか確認してください。

● 外れている場合 ⇒ 電源スイッチをOFFにしてから再度、充電クリップを接続してください。
充電器の故障ではありません。

● 外れていない場合 ⇒ バッテリーが長期放置されていたり、放電の程度が強くこのまま充電を継続しても容量の回復が期待できません。新品バッテリーと交換してください。

充電不可表示灯（赤）が点灯したまま充電を継続するとICタイマーにより2時間後に充電不可表示灯（赤）が消灯し、モードⅡに移行しますが適正な充電（容量回復）は出来ていません。

4. 充電が進みバッテリーがほぼ充電状態（80～90％充電状態）になると充電中表示灯（緑）が点滅し始めます。
2時間後に消灯し、充電が停止します。この時、電源表示灯だけが点灯しています。

【 充電時間のめやす 】

下記の表は100％放電状態から約80％充電状態までのめやすです。（新品、電池温度25℃）

⚠ 注 意 充電中はバッテリーが異常発熱していないか時々確認し、異常を感じたら直ぐに充電を中止してください。
24時間充電しても充電が完了しない場合は、バッテリーが不良です。

バッテリー容量（Ah／10時間率）	2.5	4	6	8	10	12	14	18
充 電 時 間（時間）	3.5	4.5	5.5	7	8.5	9.5	11	13.5

- ④ 充電完了後のあとかたづけ
1. 充電器の電源スイッチをOFFにしてください。電源表示灯が消灯します。
 2. 電源プラグをコンセントより抜きます。（必ず電源プラグを持って抜いてください）
 3. 充電クリップを次の順序でバッテリー端子から取り外してください。
 - 1) 黒色クリップ ⊖ (マイナス)
 - 2) 赤色クリップ ⊕ (プラス)
 4. 液口栓を取り外したバッテリーは元通り液口栓をしっかり締めてください。
 5. バッテリーを極性に充分注意して車体に取り付けてください。

■ 故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう一度点検をしてください。

こんな時は	これが原因です	次のことを点検してください
電源表示灯が点灯しない	● 電源がきていない ● 電源プラグが外れている	電源を確かめ電源プラグをしっかり差し込みます。
充電時間を過ぎても充電中表示灯が消灯しない	● 過放電バッテリーです ● 不具合バッテリーです	充電時間のめやすは100%放電の場合です。24時間を経過しても充電中表示灯が消灯しない場合はバッテリー不良です。充電を中止してください。
充電開始直後に充電不可表示灯が点灯する	● 充電クリップがバッテリー端子から外れている ● 不具合バッテリーです	充電クリップをしっかり接続します。充電を継続しても容量が回復できません。新品バッテリーへの交換をおすすめします。
充電器から異音、異臭がする	_____	ただちに電源プラグをコンセントから抜き、ご購入店にご相談ください。
その他の異常	_____	ご購入店にご相談ください。